



しんゆう



文責 第1学年主任 松本清美

* 稲刈り完了 *



10月22日(木)に、農業ボランティアの若色さん、半田敏一さん、半田知久さんにご協力いただき、稲刈りをしました。最初に、1、6組が参加して、「はじめの会」が行われました。若色さんから、稲の刈り方や注意点などについて説明いただいた後、いよいよ稲刈りのスタートです。1クラス6列ずつの分担があり、まずは、1、6組から始めました。



今回、農業体験で学べたことは、米へのありがたみです。小学生のときは「こうやって米を育ててるんだ」ぐらいしか考えたことがなかったけど、中学生になって改めてコメの大切さを学ぶことで、食への関心が高まるんだと思いました。

定期的に稲の観察をすることで、稲の生長がよく分かったし、稲を部分的に観察すると、変化がよく分かっておもしろいと思った。稲の生長する姿を見て、もうすぐ収穫だと思い食べる日が楽しみになった。できれば田植えもしたかったけれど、稲刈りだけでも行うことができて良かったと思う。稲刈りをするにあたって、田んぼを管理してくれた人たちや実行委員の人たちに感謝しないといけないと思う。

続いて、2、3組の番です。何と言っても驚きは、3組の稲刈りの手際のよさです。その手際の良さは学年一！みんなびっくりしていましたよ。そして、実行委員のみなさんは、全クラスの稲刈りのサポート役として、ひたすら、刈り取った稲をコンバインに運ぶ仕事をしていました。本当にお疲れ様です。



最後は、4、5組でした。4クラスが刈ったあとの残りの稲を全てきれいに刈ってくれました。そして、稲刈りが無事に終了しました。その後、4、5組が参加して「おわりの会」を行いました。その会で、福祉ボランティア委員会で作成したしおりを感謝の気持ちを込めて渡しました。

農業体験実行委員の人たちは、落ちている稲がないかを探したり、みんなが使った鎌をきれいに洗ったり、最後までしっかり頑張っていました。お疲れさま!! 給食で収穫したお米が出てくるのが楽しみです。そのときは、一粒残らずきれいにいただきます。



いつも私達が食べているお米や野菜は地域の方が大切に育てているのだと分かった。そして、今回の活動を通して、農業の大変なこと、大切さを知ることができた。稲のことに知って、びっくりしたのが、意外に稲が生長するのが早かったことで、最初に観察したときは、20数cmだったので、すぐに90cm以上までいってびっくりした。あと、稲を刈るのが意外と難しかった。一発で切れないし、鎌にひっかかりやすから、上手く力をかけて、一瞬で引かないと切れなかった。今年は田植えができなかったけど、農業体験でいろんなことが学べたから良かった。

農業体験で学んだことは、農家さんへの植物への『愛』です。小学校で学んだことから考えても、米を育てるのはすごく大変なことだと思います。それでも、あの量の稲を全て大きく育てていて、どんなことがあってもたくさんの『愛情』を注いであそこまで大きく育てたんだなあと思いました。



稲の観察をたくさんして、小学校であまり良く観察をしなかったのが、今回中学校で観察する機会ができて良かったです。いろいろな発見がありました。そして、稲の生長が見られて良かったです。日々、稲の生長を見るのを楽しみにしていました。

稲刈りは小学校の頃から何度もやってきたけれど、コンバインを使った稲刈りは初めてでした。いつも食べているお米ですが、こうして農家の方が一生懸命作っているのだと実感しました。また、小学校の頃と違ったことは、コンバインだけではありません。刈る稲の数が多かったところも違っていました。今回の稲刈りを通して学んだ農家の方たちの苦労や、毎日お米が食べられることのありがたさを常に自覚し、お米を味わって食べたいです。